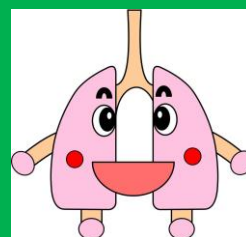


## 多摩府中保健所感染症週報

令和元年 第30週 (7月22日~7月28日)



肺えもん

## 今週の傾向

★手足口病の報告数が更に増加し、管内・都内ともに警報レベルが続いています。

★ヘルパンギーナの報告数が増加し、管内は警報レベルが続いています。

★RSウイルスの報告数が増加し、今後、注意が必要です。

★引き続き、適切な手洗いや環境消毒を行い、感染拡大を防止しましょう。

## ● 定点把握対象疾患・定点医療機関当たりの報告数

定点	疾患名	多摩府中保健所管内		東京都内	
		第29週	第30週	第29週	第30週
インフルエンザ	インフルエンザ	0.03	-	0.09	0.08
小児科	RSウイルス感染症	0.29	0.70	0.80	1.41
	咽頭結膜熱	0.57	0.30	0.42	0.39
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.76	1.75	1.84	1.80
	感染性胃腸炎	3.05	3.45	4.10	4.28
	水痘	0.19	0.50	0.35	0.48
	手足口病	17.48	23.30	15.20	18.73
	伝染性紅斑	0.67	0.55	0.33	0.35
	突発性発しん	0.43	0.35	0.38	0.46
	ヘルパンギーナ	4.57	6.20	3.91	4.98
	流行性耳下腺炎	0.19	0.05	0.10	0.18
	不明発しん症	0.52	0.55	0.10	0.14
	川崎病	-	-	0.01	0.01
眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	-
	流行性角結膜炎	-	0.33	0.24	0.37
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	-
	無菌性髄膜炎	0.33	-	0.08	-
	マイコプラズマ肺炎	-	0.67	0.16	0.20
	クラミジア肺炎 (オウム病除く)	-	-	0.04	-
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	-	-	0.04	-
	インフルエンザ (入院)	-	-	0.04	-

※東京都感染症情報センター「WEB 感染症発生動向調査」を基に作成しています。

※定点把握対象疾患とは：発生動向の把握が必要なもののうち、患者数が多数で、全数を把握する必要のないものです。感染症法第14条により、都道府県は「指定届出機関（定点医療機関）」を指定し、指定届出機関は対象疾患について患者の発生状況を届け出ることになっています。

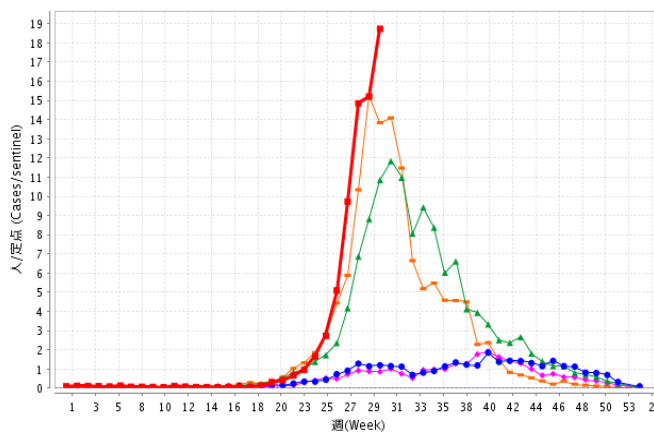
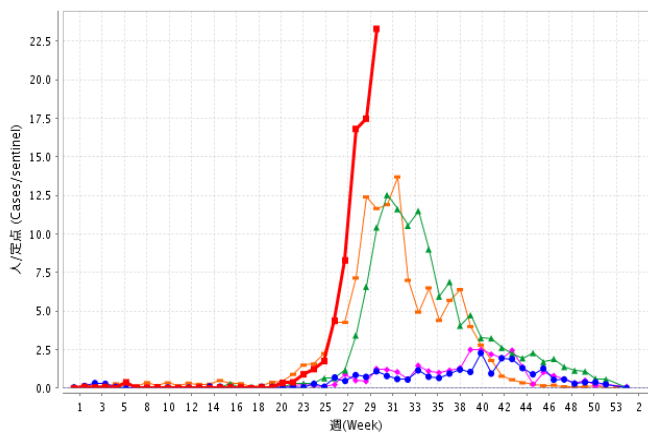
今週の状況

※赤線は2019年第30週までの定点当たりの報告数

●手足口病・・・定点当たり報告数が更に増加し、管内・都内ともに警報レベルが続いています。

多摩府中保健所管内

東京都



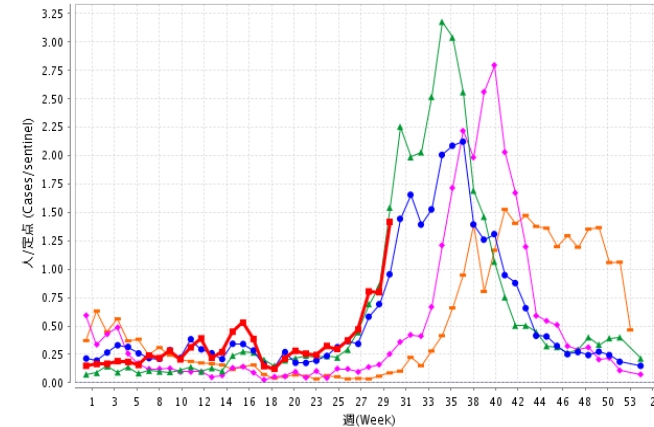
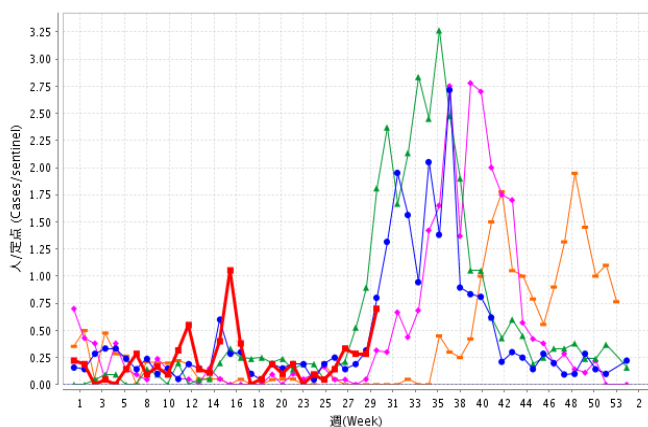
○ (多摩府中) 2015.1～ ● (多摩府中) 2016.1～ ▲ (多摩府中) 2017.1～ ◆ (多摩府中) 2018.1～ ■ (多摩府中) 2019.1～  
©2002-2019 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

○ 2015.1～ ● 2016.1～ ▲ 2017.1～ ◆ 2018.1～ ■ 2019.1～  
©2002-2019 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

●RSウイルス感染症・・・定点当たり報告数が増加し、今後注意が必要です。

多摩府中保健所管内

東京都



○ (多摩府中) 2015.1～ ● (多摩府中) 2016.1～ ▲ (多摩府中) 2017.1～ ◆ (多摩府中) 2018.1～ ■ (多摩府中) 2019.1～  
©2002-2019 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

○ 2015.1～ ● 2016.1～ ▲ 2017.1～ ◆ 2018.1～ ■ 2019.1～  
©2002-2019 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

★RSウイルス感染症とは★

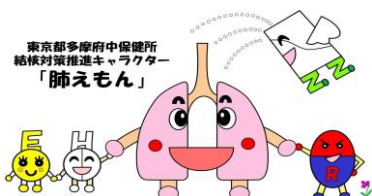
RSウイルス (Respiratory syncytial virus) を原因とする感染症で、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」が主な感染経路ですが、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。

2歳までにはほとんどすべての乳幼児がRSウイルスに感染するといわれており、いわゆる「かぜ」と同じ症状を呈します。潜伏期間は4～6日で、多くの場合、軽症でおさまりますが、1歳未満の乳児の場合は急性細気管支炎、肺炎などの重い呼吸器症状を起こすことがあり、呼吸器や心臓に慢性の病気を持つ小児に対しては特に注意が必要です。

特效薬はなく、治療はそれぞれの症状に対する対症療法が中心になります。

終生免疫は獲得されず、どの年齢でも再感染は起こりますので、集団生活ではおもちゃやタオルの共用を避け、子どもの年齢に応じて、手洗いや咳エチケットを心がけましょう。

参照：<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/rs-virus/> (東京都感染症情報センターHP)



多摩府中保健所 保健対策課 感染症対策担当  
TEL：042 (362) 2334 (代表)

検索 多摩府中 感染症週報